

第 14 章 小田久保遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

小田久保遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約 1.3km、砂川堀の左岸、標高 23 ～ 28 m に位置する。本遺跡をのせる台地は緩やかな斜面を形成するが、対岸の南側台地は急傾斜をなす。

周辺の遺跡は、砂川堀を挟んだ南側台地上に旧石器時代の石器・礫群を検出した西台遺跡が、本遺跡の東側、微高地の突端には縄文前期住居を検出した大井氏館跡遺跡がある。

本遺跡は市街化調整区域のため比較的武蔵野の面影を残す農村地帯だが、区画整理事業とふじみ野駅の開設により、ここ数年開発の波が押し寄せつつある。

1990 年に最初の試掘調査が行なわれて以来、過去の調査では数点の縄文土器片を確認しているだけであったが、2003 年と 2004 年の調査において本遺跡では初の住居跡を検出したことにより、本遺跡が縄文時代中期の集落である事が明らかとなりつつある。今後は集落の分布や範囲の解明が待たれる。

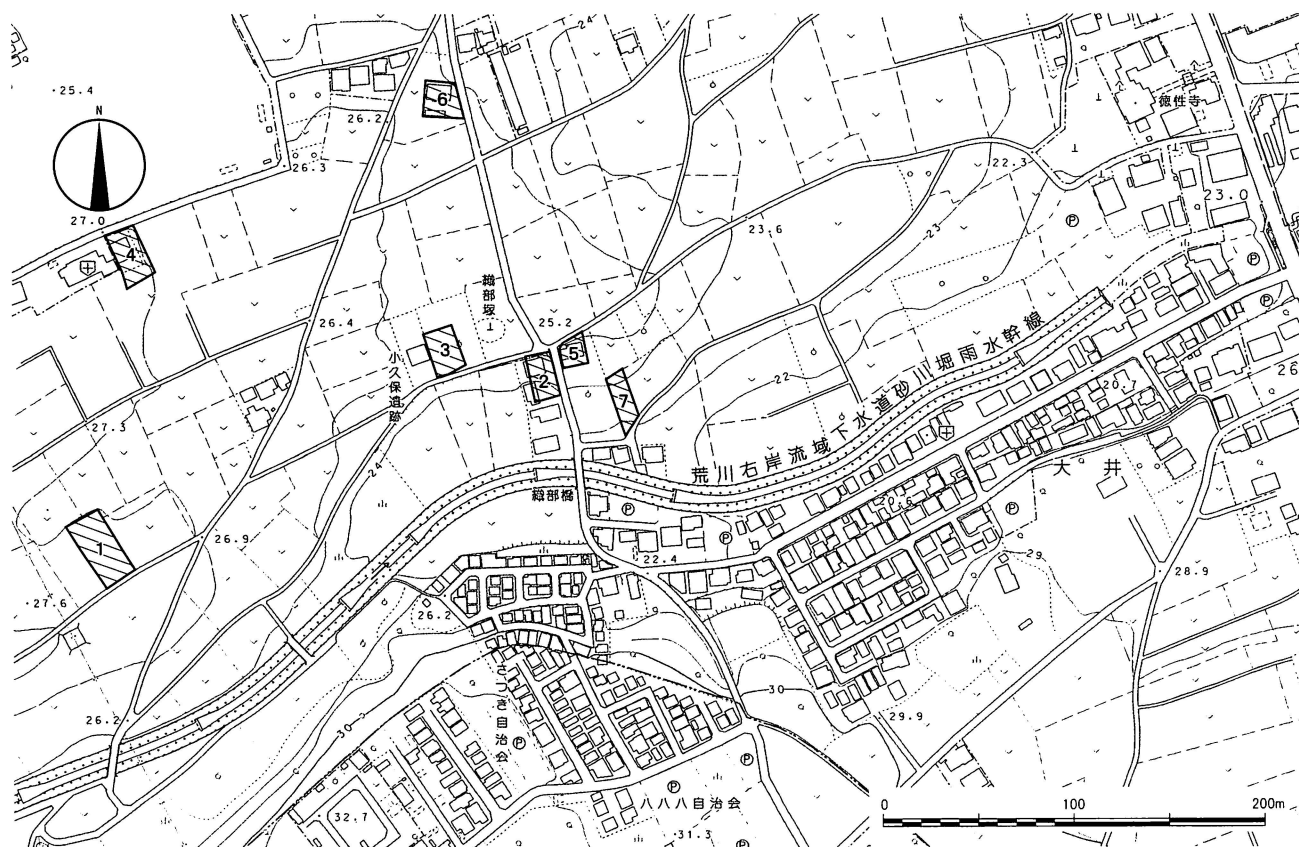
分布調査や発掘調査から遺跡の時期は旧石器時代、縄文時代早期から中期、中世～近世である。

II 小田久保遺跡第 7 地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2008 年 3 月 3 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡中央南側に立地し、隣接地では住居跡や集石等を検出しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

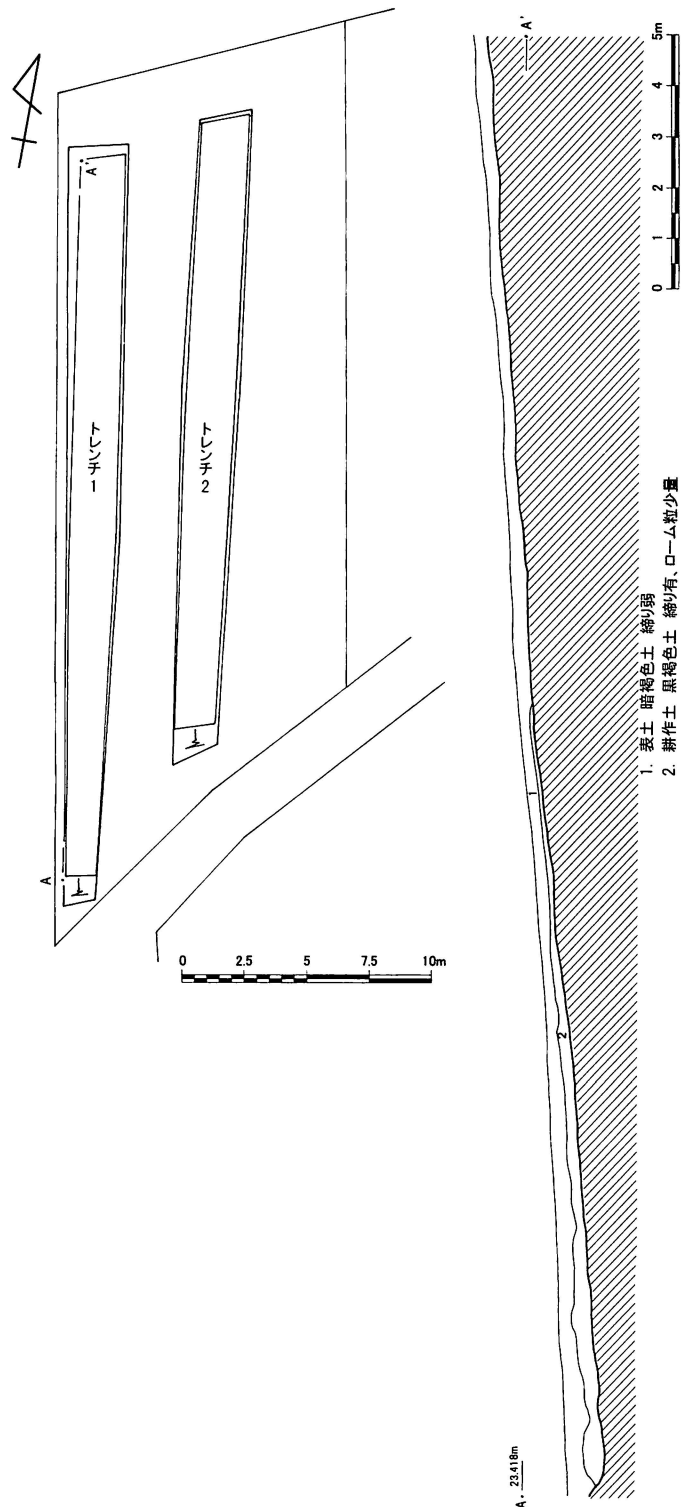
試掘調査は 2008 年 5 月 19 日から 21 日まで行なった。幅約 2 m のトレンチを 2 本設定、重機で表土除去後、人力による表面精査を行なったが遺構・遺物は検出しなかったため慎重工事とし、写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。確認面まで 30 ～ 80 cm を測る。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。



第 107 図 小田久保遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第51表 小田久保遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	大井 1223-3	1990.10.12 ~ 18	694	資材置場	遺構無し、縄文中期土器片	東部遺跡群ⅩⅠ
2	大井 1249-1	1993.9.21 ~ 10.1	498	個人住宅	遺構無し、縄文中期土器片、石器	町内遺跡群Ⅲ
3	大井 1214-3	1994.6.7	330	個人住宅	遺構無し、縄文中期土器片、石器	町内遺跡群Ⅳ
4	大井 1185-5	(1997.6.24 ~ 26)	271	分譲住宅	土坑1	町内遺跡群Ⅶ
5	大井字西原 1023	(2003.8.18,19) 2003.8.20 ~ 9.2	165	個人住宅	縄文中期住居跡1	町内遺跡群ⅩⅡ
6	大井字小田久保 1207-5	2004.10.26 ~ 11.13	306	個人住宅	縄文中期住居跡1、集石土坑1、土坑2、ピット8	町内遺跡群ⅩⅡ
7	大井字西原 1023-9,8	(2008.5.19 ~ 21)	333	個人住宅	遺構・遺物無し	市内遺跡群6



第108図 小田久保遺跡第7地点調査区域図(1/300)、土層図(1/150)

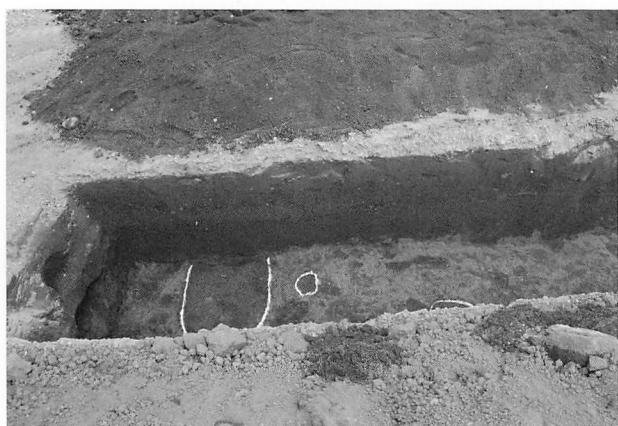
小田久保遺跡第 7 地点、本村遺跡第 119・120 地点、東台遺跡第 50 地点



小田久保遺跡第 7 地点全景



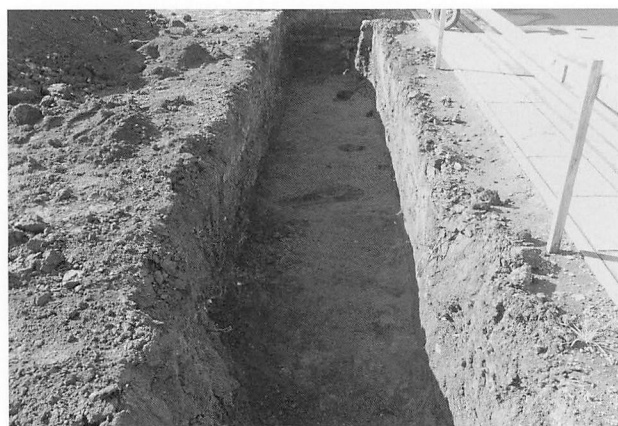
小田久保遺跡第 7 地点調査風景



本村遺跡第 119 地点トレンチ 3



本村遺跡第 119 地点調査風景



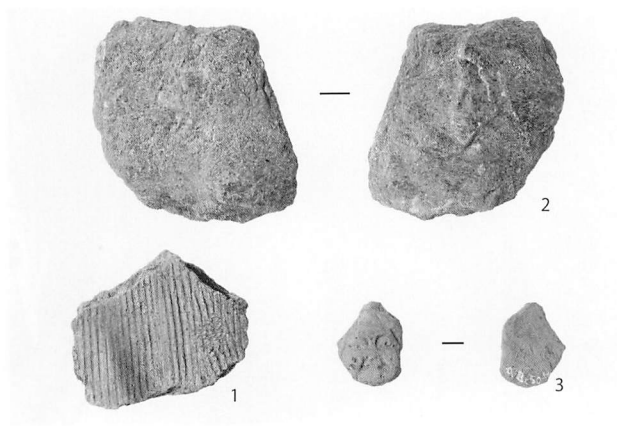
本村遺跡第 120 地点



本村遺跡第 120 地点調査風景



東台遺跡第 50 地点全景



東台遺跡第 50 地点出土遺物 No.1 ～ 3